

● 課題①: 基本構想等を踏まえた設計コンセプト

・基本構想における整備コンセプトと方針を念頭においたもの

・計画概要説明書の各事項に概ね即したもの

地域全体が家族となり、皆で子どもの"生きる力"を育む学校

赤村で育つ時間を誇りに思う学び舎
 赤村は、岩石山やこっとい岳などの雄大な山並みに囲まれた、昔ながらの日本家屋が建ち並ぶ美しい景観を有する村です。学校で過ごす時間が子ども達のかげえのない記憶として残り、愛着や誇りをもてるよう、赤村の景観に調和する小さな家が集まった集落のような学校とし、たくましくやさしい赤村っ子を育む教育施設とします。



図 1-1: 誇りや愛着が生まれる学校づくり 図 1-2: 南側鳥瞰。小さな家が集まり、赤村の風景と調和する新しい校舎

1 [方針1] 多様な学習に対応し、9年間を見通した施設整備 児童の知的好奇心を刺激し、多様な学びが実践できる学校

- 6-3 学制に適したゾーニング:** 1階に管理諸室、2階に小学生教室、3階に中学生教室を配置し、教育カリキュラムの実践に適した階構成とします。また、中心にある階段ホールで緩やかに空間を繋ぎ、異学年の交流を促進させます。特に小中の移行期に配慮し、9年間のシームレスな教育環境を整備します。
- 主体性と創造性を育む学習環境:** 自然を取り込み、子ども達が多様な学びに出会える「赤村ユニット」や、児童の知的好奇心を刺激するメディア空間である「オープンメディアストリート」など、新たな学びを発見できる場を整備し、主体的で創造的な学習を実現します。

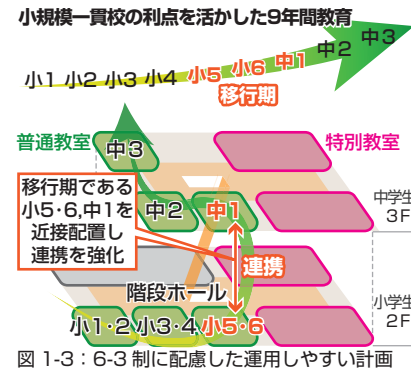


図 1-3: 6-3 制に配慮した運用しやすい計画



図 1-4: 主体性と創造性を育む空間構成のイメージ

- ICT 環境の整備:** 遠隔授業やデジタル教材などに対応するため、建築と設備の両面から、適切な ICT 環境を提案します。児童の情報リテラシーを向上させ、最先端の教育を実践できる学習環境を整備します。

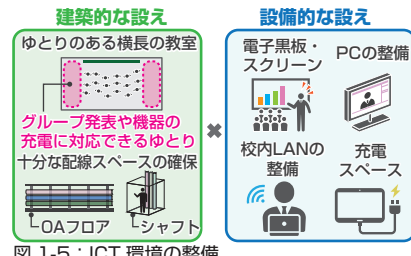


図 1-5: ICT 環境の整備

2 [方針2] 地域に開かれ、故郷に誇りを持てる学校 郷土への誇りと愛着を感じ、村とともにある学校

- 村のシンボルとなる校舎:** 岩石山をはじめとする山並みや既存校舎、周辺建物に呼応する勾配屋根を採用します。従来型の巨大な校舎ではなく、「家=教室」が集まった「集落」のような、親しみやすい校舎とします。
- 地域と学校をつなぐ:** 地域に開放する図書室は利便性に配慮し、駐車場に近い東側に配置します。屋内運動場との間に「ゆすの木モール」を設け、イベント等が行える計画とします。

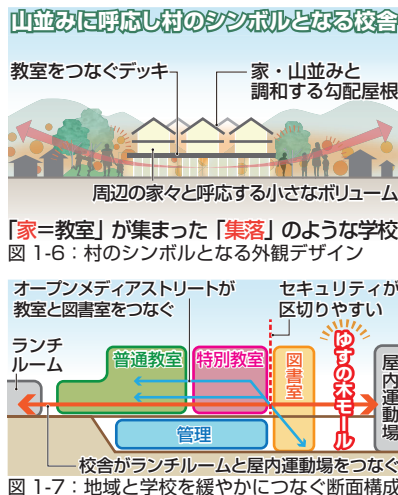


図 1-7: 地域と学校を緩やかにつなぐ断面構成

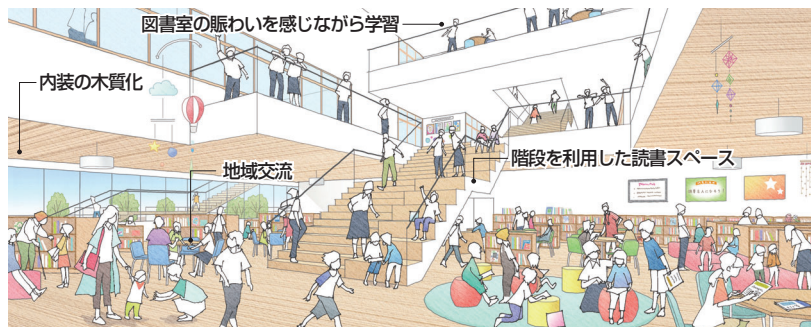


図 1-8: 地域開放を想定した図書室のイメージ

- 児童生徒×教職員×地域の交流促進:** 異学年交流や教職員、地域住民とコミュニケーションを取れる場を多数整備し、対話を通じて自然に地域のことを学べる環境を整備します。

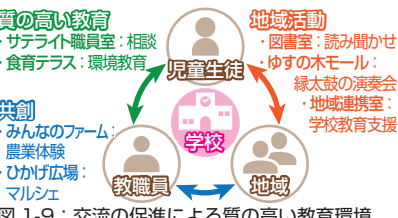


図 1-9: 交流の促進による質の高い教育環境

3 [方針3] 自然を慈しむ心を育む、環境に配慮した学校 村の自然を最大限活かし、環境共生を先導するエコスクールの実現

- 自然を慈しむ心を育む学習環境:** 恵まれた赤村の自然環境を十分に取り入れ、子ども達が過ごしやすい、知的創造性・生産性を高める空間づくりとします。
- 環境教育の場となる学校:** 学べるエコツールとして、ディスプレイ等による見える化を行い、環境への関心を高める学校とします。
- ZEB Ready の達成:** 太陽光パネルによる創エネや各種省エネ手法を採用し、ZEB Ready の達成を目指します。

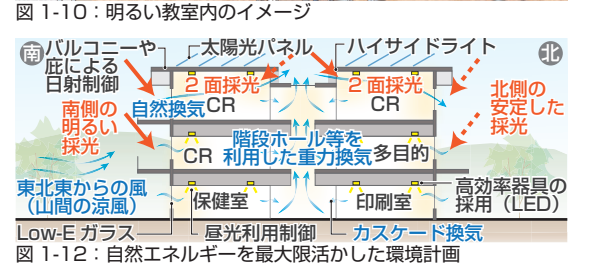
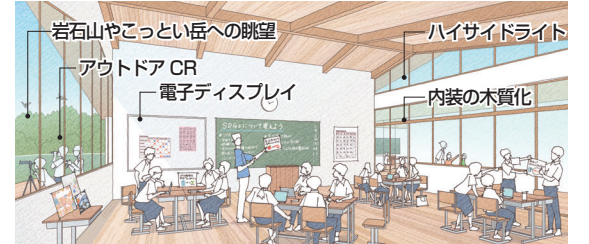


図 1-11: 自然エネルギーを最大限活かした環境計画

4 [方針4] 日々の生活でたくましさ身につける学校 成長に合わせた、安全で活発な健康・体力づくりのできる空間構成

- 「歩き」を促進する仕掛けづくり:** 既存施設をつなぐ新校舎の共用エリアには、様々な遊びや交流を誘発するスペースを整備します。日常的に歩き回り、様々な発見に出会うことができる校舎を計画します。
- 体力づくりのできる外構計画:** 敷地全体を公園のように捉え、高低差を活かした回遊性のある外構とすることで、子ども達の体力向上と健康的な生活を実現します。
- たくましい子を育てる十分な運動スペースの確保:** 様々なスポーツに対応できる十分な広さの屋外運動場や雨の日でも体を動かすことができる「ひかげ広場」を整備します。



図 1-13: 回遊性のある外構計画

5 [方針5] 教職員が「チーム学校」として一丸となる執務環境の整備 教職員のつながりを深化する、明るく働きやすい学校

- 教職員のチーム力を高める職員室:** 静かなエリアと賑やかなエリアを緩やかにつなぎ、快適な執務環境を整備します。様々なシーンに対応できる共用ラウンジでは、教職員間のコミュニケーションを促進します。
- 指導力の向上:** 周辺の学校教職員や、ICT活用などの専門家との情報交換を積極的に行えるよう、会議室などにオンライン会議や研修のための ICT 環境を整備します。
- 教職員と児童のつながりの強化:** 2階以上には、先生と子ども達の日常的な交流を生むポケット commons やサテライト職員室を設け、子ども達と向き合う時間を増やします。

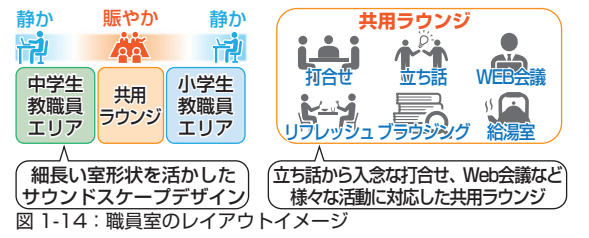


図 1-14: 職員室のレイアウトイメージ



図 1-15: 教職員のチーム力を高めるラウンジのイメージ